

|           |         |      |        |            |                 |
|-----------|---------|------|--------|------------|-----------------|
| 入 試<br>年度 | 2026 年度 | 入試時期 | Ⅱ期入学試験 | 実施日        | 2026 年 2 月 24 日 |
| 課程        | 博士前期課程  | 研究科  | 文学研究科  | 専攻・<br>コース | 英文学専攻           |
| 入 試<br>方式 | 一般入学試験  |      | 試験科目   | 米文学史       |                 |

「解答」または「解答例」及び「出題の意図」

【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】

問題 [I] ではアメリカ文学に関係する用語 10 項目のうち 5 項目を選び、選択した項目について、作家(思想家、批評家を含む)及び作品(映画を含む)に関わらせて説明することが求められています。項目は米文学史の広い基礎知識を確かめられるように挙げられています。そして、項目の定義だけではなく作家・作品に即した具体的な考察を出来る力を問うています。例えば、項目 1. American Renaissance を選んで解答する場合、「アメリカン・ルネサンス」の時期（1830 年代から 1850 年代前半）・その文学の特徴（「内省的」に自己を見つめる特徴）・時代背景（産業の発展とともに領土拡張に走るアメリカ）・代表的作品を定義として文章化することに加えて、作家・作品の具体例を挙げて、前述した文学的特徴を説明することが求められています。Walt Whitman の *Leaves of Grass* (初出 1855 年)を具体例として分析した場合、“Song of Myself”の詩人かつ話者があらゆる他者に成り代わるデモクラティックな自己(“I”)をパフォーマンスに体現することで、同時代のアメリカ社会の問題に詩を通して取り組んでいることを指摘することなどが考えられます。

問題 [II] ではアメリカ文学の代表的作家 10 名のうち 5 人を選び、少なくとも 1 作品を挙げて、その作品と社会的背景との関係を論じることが求められています。例えば、1. Emily Dickinson を選んで解答する場合、作家 Dickinson (1830－1886 年)がマサチューセッツ州アマストの名士の家に育ち、詩作を続けたこと、約 1800 篇に及ぶ詩作品のほとんどを出版できずに亡くなり、遺稿が出版されて後世に高く評価されたことなどをあげて、具体的に詩作品について論じると良いでしょう。たとえば “I heard a Fly buzz—when I died—”(F 591) を具体例に挙げれば、信仰復興運動が盛んだったアマストの死生観や看取りの風習をユーモラスに批判する語り、死にゆく語り手の鋭敏な知覚が「蠅」の「ブン」という羽音を前景化して描く死の肉体感覚を指摘し、伝統的な宗教観を転覆させる現代的な世界観を詩人の個性としてだけでなく同時代の科学思想の影響として論じることなどが考えられます。

問題 [III] ではアメリカ文学作品を 1 つの視点から論じる力を検証します。4 つの論題のうち 1 つを選び、具体的な作品を 1 つ以上挙げて論じることが求められています。例えば、論題 3. アメリカ文学における「家族／家庭」を選んで解答する場合、作家 Ernest Hemingway の短編小説“Soldier’s Home”(初出 1924 年)において、第 1 次大戦に志願した

Harold Krebs が、故郷の町に帰還した際、自らの戦争体験を語る必要性和正確に語りえない苦しさを抱えながら、実父、実母との疎隔を覚え、他方、妹との親和性にある種の希望を見出していく姿を説明し、どのように戦争と戦後という具体的な歴史性が家族の内部へと影を落としているのか、その内部からいかに主人公が再出発していこうとしているのか、論じることができるでしょう。

【出題の意図】

明治大学大学院博士前期課程米文学専修における研究を始めるのに十分なアメリカ文学の基礎知識ならびに研究対象を分析・論述する能力を問うています。問題 [I] [II] [III] すべてに共通して、作品を通して具体的に分析・説明・論述することを求めています。また、作家・作品名を原語で記すように指示しているのは、原文に即した考察が研究の土台だからです。米文学史や批評用語の基礎知識は、今後、自らの専門を絞っていくときの足場になるとともに視野を広く持つために必要です。基礎知識の解答には事実即した正答や誤答があり得ますが、具体的な作品についての論述にはいわゆる正解はありません。しかしながら、個々の考察の説得力には差があり、説得力を増すのは誠実に緻密な作品読解と自らの考察を伝達する言語能力です。このような能力を検証しています。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。